

## 共同研究室

昭和五五年度第五回研究会(七月四日)

▼テーマ イギリス一八三三年工場法と児童労働問題

報告者 湯浅良雄氏

(報告要旨は第二十九卷・第三号研究の項に掲載)

▼テーマ ビクトリア中期の労働者生活と生命保険

報告者 横山寿一氏

(報告要旨は本号研究の項に掲載)

昭和五五年度第六回研究会(九月十九日)

▼テーマ 転換期の住宅問題

報告者 奥地 正氏

(報告要旨は第二十九卷・第五号に掲載)

昭和五五年度第七回研究会(十月三日)

▼テーマ 現代アメリカの巨大企業とその研究状況

報告者 坂本和一氏

(報告要旨は本号論説の項に掲載)

昭和五五年度第八回研究会(十月十七日)

▼テーマ スタグフレーションの理論的構造

——ケインズ派とマネタリスト派を中心として——

報告者 松川周二氏

(報告要旨は第二十九卷・第五号に掲載)

昭和五五年度第九回研究会(十月三十一日)

▼テーマ 一つの自然史としての社会経済史

報告者 梯 明秀氏

昭和五五年度第十回研究会(十一月七日)

▼テーマ 戒能通厚著『イギリス土地所有法研究』

報告者 栗原真人氏

昭和五五年度第十一回研究会(十二月十二日)

▼テーマ イギリス経済の危機と鉄鋼国有化

報告者 家長 隆氏

昭和五五年度第十二回研究会(十二月十九日)

▼テーマ 貨幣の前貸しと資本の前貸し

報告者 浅田和史氏

▼テーマ 日本財政の危機と「財政再建」政策

報告者 梅原英治氏

▼本年度（昭和五五年四月以降五六年三月迄）会員が本誌以外に発表した業績はつきのごとくである。ただし※印のついたものは昨年度の業績である。

芦田文夫

「生産の社会化」と社会主義的所有」

《経済論叢》 京大 木原正雄教授退官記念号

昭和五六年一月

『ソ連社会主義論——現状と課題』（長砂實氏との共同編

集） 大月書店 昭和五六年三月

「所有論争と社会主義」

島恭彦監修「講座・現代経済学」第六卷『現代経済学

論争』所収 青木書店 昭和五六年三月

足立政男

「老舗における消費者サイドの経営哲学」

『市邨学園大学記念論文集』 昭和五五年四月

「京都にユニークな優良会社が簇生している原因は何か」

《田辺経営》 昭和五五年七月

『日本文化の歴史』第九卷 小学館 昭和五五年九月

伊藤正直

※「戦時体制下の地方銀行」

朝倉孝吉編『兩大戦間の金融構造』所収

御茶の水書房 昭和五五年二月

「日本銀行」

「都市銀行と地方銀行」

一九八〇年度『国民の独占白書』所収

御茶の水書房 昭和五五年十月

「一九三〇年代日本の対外経済政策」

『社会経済史学会大会報告要旨』 昭和五五年十月

「紹介 田中生夫著『戦前戦後日本銀行金融政策史』」

『史学雑誌』 昭和五六年二月

岩田勝雄

「戦後日本の経済構造の変化」(共同執筆)

『戦後日本の社会構造の変化』所収

立命館大学人文科学研究所 昭和五五年六月

大藪輝雄

※「共著」『京都府農地改革史』

京都府農業会議 昭和五五年三月

「翻訳 V・クレム著『ドイツ農業史』(村田武氏との共

同翻訳)」 大月書店 昭和五五年九月

小野一郎

「労働の普遍性と就業・労働条件」

長砂 實・芦田文夫編『ソ連社会主義論』

現状と課題』所収 大月書店 昭和五六年三月

北野正一

「日本鉄鋼業の技術」

置塩信雄・石田和夫編『日本の鉄鋼業』所収

有斐閣 昭和五六年三月

甲賀光秀

「戦後日本の経済構造の変化」(共同執筆)

『戦後日本の社会構造の変化』所収

立命館大学人文科学研究所 昭和五五年六月

小檜山政克

『大塚金之助著作集』第三卷 解説

岩波書店 昭和五六年一月

後藤文治

※『県民経済計算標準方式について』

経済企画庁・国民所得部・各県提示資料

昭和五五年三月

『戦後日本の社会構造の変化』所収

立命館大学人文科学研究所 昭和五五年六月

後藤 靖

「戦前と戦後の日本資本主義」

『戦後日本の社会構造の変化』所収

立命館大学人文科学研究所

昭和五五年六月

『未来に生きた人びと』

ドメス出版 昭和五五年七月

『天皇制形成期の民衆闘争』

青木書店

昭和五五年七月

〔編集〕『改訂 労働問題講義』

新日本新書 昭和五五年十月  
青林書院新社 昭和五六年三月

「書評 色川大吉責任編集『三多摩自由民権資料集』」

《東京経大会誌》

昭和五五年九月

高内俊一

「現代と経済学」

〔編著〕『日本近代国家と民衆運動』

有斐閣

昭和五五年十月

《経済》

「戦後日本の経済構造の変化」(共同執筆)

昭和五五年五月

「晩年失意の板垣翁」

『歴史への招待』第1巻

N・H・K出版部

昭和五五年十月

『戦後日本の社会構造の変化』所収

立命館大学人文科学研究所 昭和五五年六月

「戦後日本資本主義論について」

塩田庄兵衛

《総合研究会報》

〔編集〕『労働用語辞典』第二版

東洋経済新報社

昭和五五年四月

立命館大学人文科学研究所 昭和五五年十月

「書評 『叢書マルクス主義と統計』」

「戦後日本史の時期区分」

《経済》

昭和五五年十一月

共同研究室

一八一(一九五)

戸木田嘉久

「労働行政と部落問題——階級構成・就学構造の変化との関連で——」

『戦後部落の現状・行政の研究』所収 戦後部落問題の研究・第六卷

部落問題研究所 昭和五五年七月

「今日の経済危機と貧困化・生活不安問題」

《経済》

昭和五五年九月

「剰余価値論」

岡本・横山・宇佐美ほか編『マルクス「資本論」の研究』(上)所収 新日本出版社 昭和五五年九月

「右翼的潮流の社会経済的基盤の動揺」(共同執筆)

向笠・木元・高木・戸木田編『工場調査・巨大工場と労働者階級』(上)所収 新日本出版社 昭和五五年十一月

藤岡 惇

「経済文献紹介(5)」

「剰余価値の生産」をめぐる二・三の問題」

《経済科学通信》

昭和五五年七月

「経済文献紹介(6)」

《経済科学通信》

昭和五五年九月

「マルクス経済学の研究動向と教育問題」(座談会)

《経済科学通信》

昭和五六年一月

馬原鉄男

「皮革産業の現状と問題点」

『戦後部落の現状・行政研究』所収

戦後部落問題の研究 第六卷

部落問題研究所

昭和五五年七月

三好正巳

「書評 相沢与一著『現代社会と労働』社会運動——労働の社会化と現代の貧困化——」

《社会政策学会年報》

昭和五五年五月

時論「労働省「時短推進計画」の中味」

《賃金と社会保障》

昭和五五年十月

「特定不況地域」の雇用対策——舞鶴市からの報告——

《賃金と社会保障》

昭和五六年一月